

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）情報学研究科情報学専攻（M）

1. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」P.8の「(5) 人材育成目標と3つのポリシーの相関（資料11）」において3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）の関連性についての説明がなされている。この資料では、CP1～CP3に対応するディプロマ・ポリシーやアドミッション・ポリシーについての説明がなされている一方で、同様にカリキュラム・ポリシーに掲げるCP4とCP5に対応するディプロマ・ポリシーやアドミッション・ポリシーについては説明がなされていないように見受けられる。このため、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針であるカリキュラム・ポリシーにおけるCP4やCP5の位置付けが明らかでないことから、本学科のディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーとCP4及びCP5との対応関係を説明するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」P.13の「資料11 人材養成目標と3つのポリシーの関係図」を含めた関連する資料や記載内容について必要に応じて適切に改めること。（改善事項）……………2

(改善事項) 情報学研究科情報学専攻 (M)

1. 設置の趣旨・目的

「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」P.8の「(5) 人材育成目標と3つのポリシーの相関(資料11)」において3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。)の関連性についての説明がなされている。この資料では、CP1～CP3に対応するディプロマ・ポリシーやアドミッション・ポリシーについての説明がなされている一方で、同様にカリキュラム・ポリシーに掲げるCP4とCP5に対応するディプロマ・ポリシーやアドミッション・ポリシーについては説明がなされていないように見受けられる。このため、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針であるカリキュラム・ポリシーにおけるCP4やCP5の位置付けが明らかでないことから、本学科のディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーとCP4及びCP5との対応関係を説明するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類(資料)」P.13の「資料11 人材養成目標と3つのポリシーの関係図」を含めた関連する資料や記載内容について必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本研究科のカリキュラムポリシーを確認のうえ、CP④・CP⑤の位置づけ、およびディプロマポリシー、アドミッションポリシーとの関係について述べる。また、これらの説明に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」の本文の記載および資料11の図を改める。

1 本研究科のカリキュラムポリシーの確認

本研究科のカリキュラムポリシーは以下のとおりである。

■ カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)

学位授与に必要なとされる能力等(ディプロマポリシー)を修得するために、情報学研究科情報学専攻(修士課程)は次のように教育課程を編成、実施する。

- ① 情報通信技術に関する専門性を社会で活用・実践するための能力を得るために、「共通領域」を置く。
- ② 情報通信技術に関する高度な専門性を得るために、「専門領域」を置き、そのなかに「基盤情報科目群」と「応用情報科目群」を置く。
- ③ 仮説構築・検証のプロセスのなかで、情報通信技術に関する専門性と、それらを活用するための能力を得るために「課題研究」を置く。
- ④ コースワークとリサーチワークの組み合わせにより、獲得した知識・技術・能力等を実践的に発揮させる指導を行う。
- ⑤ メディア授業等、学生のライフスタイルに合った柔軟な教育方法を取り入れる。

【学習成果の評価方針】

学習成果の評価方法として、以下のように成績評価の基準を定める。

●成績評価基準

- ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに則した到達目標、成績評価方法をシラバス等で受講生に周知し、その達成度に応じて、別表のように成績段階を決定する。
- 成績評価のために考査を行い、合格した者に対して、「S・A・B・C」で評価し単位を与える。考査は試験、レポートなどによって行い、学習への積極的な参加（出席だけではなく議論への参加や自己学習など）を前提として求める。

【別表】

評価	評点	基準
S	100-90	到達目標に完全に達しているか、さらに上回る水準に達している
A	89-80	到達目標に十分達している
B	79-70	到達目標に概ね達している
C	69-60	到達目標に最低限達している
D	59 以下	到達目標に達していない

(以下、カリキュラムポリシーの①～⑤を、それぞれ CP①、CP②、CP③、CP④、CP⑤とする。)

2 CP④および CP⑤の位置づけ、およびディプロマポリシー、アドミッションポリシーとの関係

まず、「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」に記載のとおり、カリキュラムポリシーの CP①・CP②・CP③はカリキュラムの体系的な編成について定めた編成方針である。そして、CP④・CP⑤は CP①・CP②・CP③に基づき編成した各科目区分のカリキュラムの実施方針の位置づけであり、カリキュラム全体に適用するものである。ディプロマポリシーにて定める各能力等には CP①・CP②・CP③が直接対応しており、CP①・CP②・CP③に基づき編成したカリキュラム全体を CP④・CP⑤にて実施することでディプロマポリシーの各能力等の獲得に至る。そのため、CP④・CP⑤はそれぞれが CP①・CP②・CP③を介して間接的にすべてのディプロマポリシーと関連する。

次に、本研究科で学習・研究するための資質は CP①・CP②・CP③と関連付ける形でアドミッションポリシーにて定めている。CP④・CP⑤は CP①・CP②・CP③に基づき編成したカリキュラムの実施方針であるため、CP①・CP②・CP③を介して間接的にすべてのアドミッションポリシーと関連する。

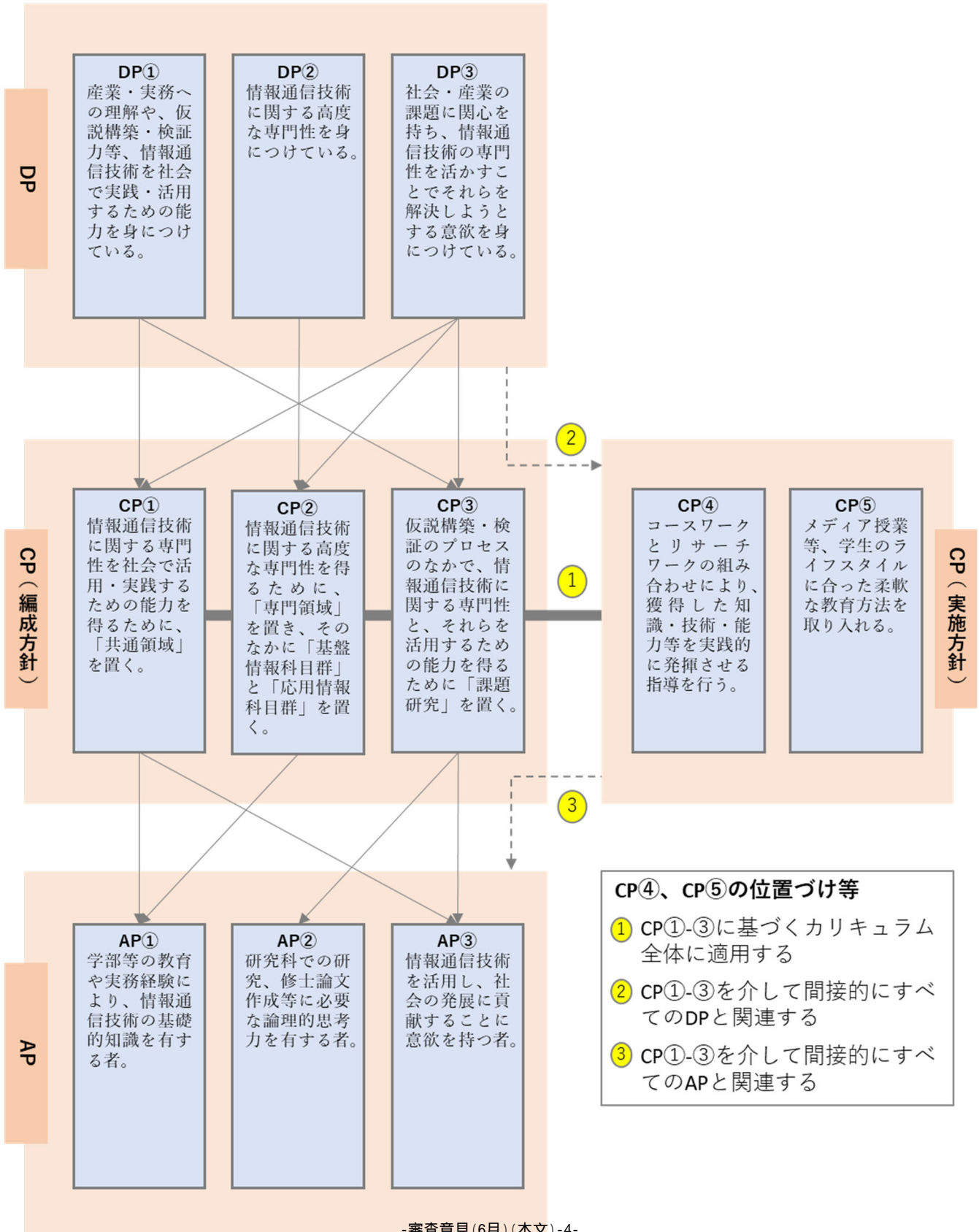
以上までの説明を人材養成目標と3つのポリシーの関係図に加えた図を次頁に示す。

人材養成目標と3つのポリシーの関係図

人材養成目標

情報学研究科情報学専攻は、情報通信技術に関する卓越した専門性と実践能力を備え、社会、産業の課題の解決や新たな価値創造に貢献することのできる人材を養成することを目的とする。

人材像に必要な知識・能力・意欲等



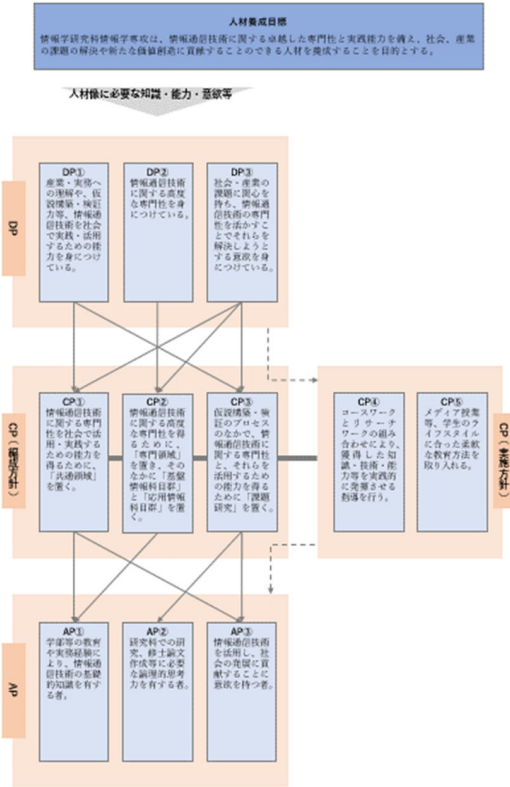
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (8-9 ページ) および同書類の資料 11

新	旧
<p>(5) 人材養成目標と 3 つのポリシーの相関(資料 11)</p> <p>本研究科で養成する人材に必要な知識、能力、意欲等はディプロマポリシーに示している。ディプロマポリシーに示す DP①は、専門的知識・技術を活用するための教育を主とする「共通領域」を置くことを定めた CP①と、研究指導を通じて仮説構築・検証を行う「課題研究」を置くことを定めた CP③に主に関連する。次に、DP②は情報通信技術の専門的知識・技術に関する教育を主とする「専門領域」を置くことを定めた CP②に関連する。そして、DP③に示す意欲については、専門性とそれらの実践力を修得し、課題研究にてそれらのアウトプットを図るという本研究科のカリキュラム全体を通じて涵養することを想定しており、教育課程の編成方針を示す CP①・CP②・CP③すべてに関連づくものとなる。また、カリキュラムポリシーの CP④・CP⑤は、CP①・CP②・CP③に基づき編成した各科目区分のカリキュラムの実施方針の位置づけであり、カリキュラム全体に適用するものである。前述のとおり、ディプロマポリシーにて定める各能力等に CP①・CP②・CP③が直接対応しており、CP①・CP②・CP③に基づき編成したカリキュラム全体を CP④・CP⑤にて実施することでディプロマポリシーの各能力等の獲得に至る。そのため、CP④・CP⑤はそれぞれが CP①・CP②・CP③を介して間接的にすべてのディプロマポリシーと関連する。</p> <p>次にアドミッションポリシーについては、</p>	<p>(5) 人材養成目標と 3 つのポリシーの相関(資料 11)</p> <p>本研究科で養成する人材に必要な知識、能力、意欲等はディプロマポリシーに示している。ディプロマポリシーに示す DP①は、専門的知識・技術を活用するための教育を主とする「共通領域」を置くことを定めた CP①と、研究指導を通じて仮説構築・検証を行う「課題研究」を置くことを定めた CP③に主に関連する。次に、DP②は情報通信技術の専門的知識・技術に関する教育を主とする「専門領域」を置くことを定めた CP②に関連する。そして、DP③に示す意欲については、専門性とそれらの実践力を修得し、課題研究にてそれらのアウトプットを図るという本研究科のカリキュラム全体を通じて涵養することを想定しており、教育課程の編成方針を示す CP①・CP②・CP③すべてに関連づくものとなる。</p> <p>次にアドミッションポリシーについては、</p>

<p>本研究科での教育研究を行うために入学者が持つべき能力等を定めている。そのため、カリキュラムポリシーに定める教育課程を実施するために入学者が持つべき能力等という観点から説明を行うと、まず、CP①の共通領域には、専門性の土台となる基礎的知識とその活用を志向する意欲が必要であることから、AP①・AP③が主に関連する。次に、CP②の専門領域には、同じく専門性の土台となる基礎的知識が必要となるため、AP①と主に関連する。CP③の課題研究には、その目的である修士論文作成に必要な能力を定めた AP②と、課題研究を通じて社会的な課題解決に向かおうとする意欲を示すものとして AP③が主に関連する。また、CP④・CP⑤は CP①・CP②・CP③に基づき編成したカリキュラムの実施方針であるため、CP①・CP②・CP③を介して間接的にすべてのアドミッションポリシーと関連する。</p>	<p>本研究科での教育研究を行うために入学者が持つべき能力等を定めている。そのため、カリキュラムポリシーに定める教育課程を実施するために入学者が持つべき能力等という観点から説明を行うと、まず、CP①の共通領域には、専門性の土台となる基礎的知識とその活用を志向する意欲が必要であることから、AP①・AP③が主に関連する。次に、CP②の専門領域には、同じく専門性の土台となる基礎的知識が必要となるため、AP①と主に関連する。CP③の課題研究には、その目的である修士論文作成に必要な能力を定めた AP②と、課題研究を通じて社会的な課題解決に向かおうとする意欲を示すものとして AP③が主に関連する。</p>
--	--

資料 11

資料11 人材養成目標と3つのポリシーの関係図



資料 11

資料 11 人材養成目標と3つのポリシーの関係図

